

様式 1

## 学 位 論 文 の 要 旨

滋賀県立大学大学院博士後期課程  
人間文化学研究科 地域文化学 専攻  
考現学・保存修景論研究 部門  
氏 名 大橋 松貴

地方都市における中心市街地の再構築に関する研究  
——滋賀県長浜市のネットワーク分析を中心に——

A Study on Reconstruction of the Urban Area in Local City :the Network Analysis in Nagahama  
City, Shiga

本研究の目的は「長浜市中心部を複数の学術的見地からとらえることにより、同市中心部のまちとしての魅力を立体的に浮かび上がらせること」である。本研究で用いる学術的見地は、大きく (1) まちの魅力を生み出す土台となるもの、(2) まちの魅力を高める役割を果たすもの、に分類できる。(1) では社会制度や観光といった分野からのアプローチを試みている。(2) では、長浜市中心部を主にネットワークの側面からとらえ、同市中心部のシンボリック的存在である(株)黒壁以外にもまちの魅力を高めるアクターが存在していることを明らかにし、それらのアクターの組織運営とそのパフォーマンスについて考察している。具体的には、同市中心部におけるネットワークをネットワーク論におけるレント分析モデルを用いて考察し、市中心部における重要なアクター(NPO 法人まちづくり役場、第三セクター長浜まちづくり(株))を抽出した。そして、同モデルにより抽出されたそれらのアクターの組織特性に関する先行研究(NPO、まちづくり会社、第三セクター)などをレビューし、各アクターの現状や問題点について考察している。従来の長浜市に関する先行研究には、(株)黒壁を対象としたものやそれ以外のファクターに注目したものなどさまざまなものが存在しているが、本研究のような(1)から(2)へと議論を進めていくようなスタンスをとるものではなく、その点において本研究のアプローチは先行研究とは異なっている。

第1章では、長浜市の中心市街地について法律や政策といった社会制度的な側面からとらえ、考察した。ここでは、中心市街地活性化法に関する先行研究をレビューしたうえで、長浜市の「中心市街地活性化基本計画」を概観し、同市の中心市街地における取り組みについてみてきた。同計画を概観すると、長浜市の中心市街地には(株)黒壁以外にも多様な事業の担い手の存在が確認され、商業を中心とした中心市街地の活性化ではなく、より多様な魅力を持った中心市街地の形成を目指していることが明らかになった。

第2章では、長浜市中心部に点在している観光資源についての確認および考察を行った。ここでは主に同市中心部における観光資源の整理と、それらが抱えている課題について明

らかにすることを目的とした。そのため、本章では観光に関する先行研究をレビューし、長浜市中心部に点在する観光資源についてみてきた。その結果、同市中心部には(株)黒壁とそれに関連するもの以外にも多くの観光資源が存在していることや、イベントのマンネリ化や観光資源同士の連携不足などの課題を抱えていることが明らかになった。

第3章では、主にネットワーク論の観点から長浜市中心部について考察した。ここではネットワーク論の観点からみた長浜市中心部におけるまちの魅力について明らかにすることを目的とした。本章では、ネットワーク論の観点から西口敏宏の提唱したレント分析モデルを用いて同市中心部を考察した。同モデルはネットワークのパフォーマンスを実証的なレベルでとらえることが可能なものであり、開放的ネットワークのレント(中央の公式調整、評判)と閉鎖的ネットワークのレント(社会的埋め込み、情報共有と学習)を基盤としている。同モデルを用いて長浜市中心部をみると、中央の公式調整を生み出すアクターが地域の内部と外部とを橋渡しする位置にある場合、ほかの3つのレント(評判、社会的埋め込み、情報共有と学習)に何らかの形で影響を与えていることが明らかになった。

第4章では、前章でその重要性が明らかになったまちづくり役場についてその現状と経営課題について考察した。ここでは同組織の抱えている問題とその要因について明らかにすることを目的とした。そのため、本章ではNPOに関する先行研究をレビューし、まちづくり役場の組織運営について考察した。その結果、同組織の組織運営の大部分は観光関連の事業で支えられており、観光地としての長浜市の価値が下がることがあれば、その組織運営にも大きな支障をきたす可能性があることが明らかになった。

第5章では、まちづくり役場の事業活動をネットワーク論の観点からとらえ、考察した。ここでは、地域の内部と外部とを結ぶ位置にある組織の事業ネットワークと組織運営との関係について明らかにすることを目的とした。本章では、第3章でもみてきた開放的ネットワークと閉鎖的ネットワークの概念を用いて調査対象の事業ネットワークを分類し、時系列的に考察した。その結果、当初は開放的ネットワークを中心とした組織運営がなされていたものの、次第に閉鎖的ネットワークによる割合が増加し、逆転現象が起きたため、開放的ネットワークを持続的に形成することの難しさが明らかになった。

第6章では、第3章の考察において明らかになったもう1つの重要なアクターである長浜まちづくり(株)について考察した。ここでは、まちづくり会社や第三セクターという概念について先行研究などをもとに確認したうえで、主に同組織の町屋再生への取り組みについてみてきた。その結果、同組織の取り組みは一定の成果を残しつつある一方、経営基盤の脆弱性や補助金に関する課題を抱えていることも明らかになった。

最後に本研究の残された課題として、長浜市中心部に点在する観光資源の歴史的な側面やその価値などについてより詳細に記述することや同市中心部についてのさらなる時系列的な調査・考察を行うことが重要である点について述べた。

※学位論文が日本語の場合には、論文題目に英文題目を添えてください。

※学位論文が英語の場合には、論文題目に日本語題目を添え、論文の要旨は日本語で書いてください。

※A 4用紙に 2,000 字程度とする。